



Vol.109
2023.7



amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

久しぶりに再会できた“モリアオガエル”

梅雨らしく雨の日が続いたある日のお昼頃、休暇村本館へ向かう途中の湯ノ沢大橋の袂でモリアオガエルに出会いました。それまで雨模様のグレーがかった景色だったのが、とびきり鮮やかな緑色のモリアオガエルの登場でそこだけ明るくなったように感じました。2017年頃まで休暇村本館の浄水施設で手のひらサイズの泡状の卵塊を見つけ、4月生まれのヤマアカガエルと共に6月生まれのモリアオガエルを館内で飼育展示したことを思い出しました。タイミングのよいことにヤマアカガエルが小さなカエルとなり全員が森へ帰る頃、モリアオガエルの小さなオタマジャクシが入り替わりで水槽に入るなど、同じ森に棲む“カエル”でも暮らすサイクルが異なっていました。水辺の木の上などで見られるモリアオガエルの特徴的な泡状の卵塊は、メスの粘液などをかきまぜて作られ、フワフワに泡立ったものが徐々に固まることで中の温度や湿度が保たれます。孵化する時期が決まって梅雨の頃なのは、固まった泡が雨水で柔らかくなり中のオタマジャクシが出やすくなるからだとか。運よく水辺に落ちてモイモリやヘビなどに狙われるなど外は敵だらけ…。そんな中でも大きくなった姿に静かな感動を覚えた出会いとなりました。

What is “Moriaogaeru”?

「森にすむ青いカエル」

アオガエル科
全長：40～80mm
分布：本州

日本固有種。森林に棲み、産卵の時以外は林床や樹上で暮らしているため吸盤が発達している。主にアブやハエ、ガなどの昆虫を食べる。少しの雨でも素早く水分を体内に吸収できる性質を持ち、吸収した水分は尿と一緒に膀胱にためておくことができる。

(参考図書：「科学のアルバム モリアオガエル」他)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



第2回 網張の四季
もりごよみ

暑さを避けて日差しが和らいだ夕暮れ時の散策も、この時期ならではの魅力があります。暗くなるにつれて、パタパタと飛翔するコウモリや大型のガなど夜の主役たちが登場します。

7月1日 10日 20日 31日 8月1日 10日 20日 31日

鳴初
き



エゾゼミやコエゾゼミ (下旬には大合唱が始まります)

ヒグラシ

コオロギやカンタンなど秋の虫



ミンミンゼミ

アブラゼミ



確認

ヒメボタル (1週間~10日程のわずかな期間) コテングコウモリなど森林性のコウモリ

タマゴタケやホコリタケなどキノコ多数

ウラギンヒョウモン

セセリチョウの仲間

スジグロシロチョウ

オオミズアオ (大型のガで美しいです)

アサギマダラ (奥産道やうさぎ平に複数飛来)



アキアカネ (体色はまだ明るい橙)

オニヤンマ

ノシメトンボ

ヤブキリやフキバツタ (成虫)

スジクワガタ

ミミズク (昆虫の方)

開
花

エゾアジサイ

ハイイヌツゲ

イワガラミ

ノリウツギ

ヤマハギ

キンミズヒキ

アキノキリンソウ

ゴマナ

ハンゴンソウ

ナワシロイチゴ

ウツボグサ

ヌスビトハギ

ヨツバヒヨドリ

ゲンノショウコ



コバギボウシ

キツネノボタン

ノコンギク

ツマトリソウやトキソウ (ゲレンデ)

ツルリンドウ

クマユリ

エゾオヤマリンドウやエゾノヨロイグサ (ゲレンデ)

ヒメボタルは幼虫の頃に、オカチ
ョウジガイなど陸生の貝を食べま
す。観察会で紹介しようと貝の採取
を試みますが中々見つ
かりません。幼虫時代、
2桁に届く数の貝を捕
食し育つというヒメボタルの探知
能力には感心させられます。



森の掲示板



網張では「コウモリの保護を考える
会」の方々の調査によって、現在9種
の森林性のコウモリが確認されていま
す。レッドデータブックに記載されて
いる種もあり、生息環境
の保全が求められます。



- ・アブラコウモリ
- ・ウサギコウモリ
- ・カグヤコウモリ
- ・キクガシラコウモリ
- ・コテングコウモリ
- ・ノレンコウモリ
- ・ヒナコウモリ
- ・ヒメホオヒゲコウモリ
- ・モモジロコウモリ

40~50kHz

※コウモリの発する
超音波パルスは、種
類によって周波数が
異なり、その音域も
幅があります。

20~25kHz

カヤブコ、アブ等もいるので防虫対策もお忘れなく!



アミハリ・バース
Vol. 5 1

ルリビタキ

科名：ヒタキ科
全長：約14cm
生態：漂鳥
分布：全国



K. Hirano
'23

鳴き声

ヒツヒツ、カッカッ
ピチチュリ、
チュリリリリリ...

ルリビタキの鮮やかな体色は、経験を積んだ生命力の強いオスであることを示しています。若いオスはメスに似た
オリーブ色の地味な体の色をしていますが、尾羽だけ将来の姿を予告するような青色です。厳しい冬を2度乗り越
えて初めて、成熟した個体を示す色彩に換羽するそうです。キビタキより足が長く地面を歩いて採食する事が得意
な事から、以前はツグミ科小型ツグミ類に分類されていました。標高 1,500m 以上の針葉樹林の沢沿いで営巣す
る事が多いそうなので、登山をされる方は出会えたら嬉しいですね。

「山小屋に憩う」(2)

不動平避難小屋の39年 阿部ひろあき

撮影 平成8年7月

再建予算要求時の約束

昭和56年4月、県の某土木事務所道路整備等を担当していた私に、予想もしなかった自然保護課への異動が発令された。自然公園担当という。登山を趣味にしていたことがその誘因だったらしい。

新しい職場に慣れた頃、不動平避難小屋の再建が気にかかった。その予算確保には課題があった。財政課への予算要求説明の際、担当財政主査には小屋再建の必要性は認めて頂いたが、維持管理委託料は付けられないとのこと。随分無茶な話だと思ったが、何としても再建したい。「維持管理はどうするのか？」との問いに、「若手山に登れるうちは、俺が管理する」と大見得をきってしまった。これが不動平避難小屋管理への関わりの始まりだった。大見得を切った甲斐があったか、57年度予算に調査費等が認められた。

二代目の不動平避難小屋建設へ

57年度に入り、具体的な作業開始。設計は外部委託だが、特に留意したのは次の2点。(1)初代小屋の外壁石積はそのまま利用すること。つまり、規模は初代小屋と同一とする。(2)冬期積雪期にも利用出来るよう、最上部にも冬期出入口を設置すること。

58年度に建設工事。この時期は別途案件で多忙だったため、殆ど工事現場には立ち会えず、担当のT君にお願いした。初冬の頃に完成検査を担当。



(写真5) 初冬の不動平避難小屋

「やっと出来た」(写真5)。3年越しの悲願がついに実現した。しばし達成感にふけていた。これが苦勞の始まりとなるとは、つゆ知らず。

春先の点検

翌59年4月に自然保護課を離れたが、越冬後の状況が気になり、4月29日に1回目の点検に入山。自然



(写真6) 雪に埋もれる不動平避難小屋

保護課のK君と彼の山仲間が応援に同行してくれた。その彼も県職員。この時の点検は驚きの連続だった。まず、残雪が多く、小屋が殆ど埋っていたこと。切妻屋根の一部

が僅かに露出していただけ(写真6、7)。これほどの残雪量は以後一回しか経験が無い。ベテラン岳人によれば、初代の小屋は厳冬期には完全に埋もれて、小屋の在りかが判らなくなり、遭難も発生したことがあったと言う。



(写真7) 小屋掘り前、K君と(左が筆者)

雪に埋もれていた上段の冬期出入口を掘出した(写真8)。念のため八合目小屋からスコップを担いできたのが役立った。中に入ろうとするK君に「酸欠注意」と呼びかけ、ライターを点けて確認して貰ったが、余計な心配だった。

内部を覗いてビックリ。あろうことか、大量の雪が吹き込んでいないか。小屋床面の2/3まで吹き込み冬期出入口付近は天井の梁付近までびっしりと詰まっていた(写真9)。



(写真8) 冬期出入口掘出し

原因は不明。中段の冬期出入口扉が怪しい。まさか、空石積の外壁隙間からの吹き込みではあるまい。小屋内の雪が消えなければ、原因究明は難しい。あまりの多さに排雪作業も断念した。雪に覆われていない奥の部分で昼食休憩。新しい山小屋で仲間と飲むコーヒーは格別だった。

下山時に八合目避難小屋内部も点検。裏の冬期出入口からの吹き込みで炊事室は大量の雪。夏季出入口も。これらは原因が明白だった。冬期利用者が出入口を完全に閉鎖しなかったためだ。同行のK君たちが排雪作業に汗をながしてくれた(写真10)。利用者は施設を大事に使って貰いたい。



(写真9) 小屋内部・雪の吹き込み状況

(次号につづく)



(写真10) 八合目避難小屋内部(冬期入口)

6/18 「チョウチョがもっと身近に〜 モニタリング調査体験」



チョウ類は自然環境の優れたバロメーターで、チョウ類を調べることに自然環境の変化

を知ることが出来ます。決まったルートの定期的な調査が、環境の異変を知る手がかりになるそうです。行事では日本チョウ類保全協会の講師より、トランセクト調査法によるモニタリングの方法を教えてくださいました。さっそく個人で取り組みたいという参加者もいらっしゃいました。「普段チョウを見るようにして見ていないことに気づいた」参加者感想より。総勢 26 名

国立公園で楽しむ親子の自然体験

7/15 『ナイトハイクと 星空観察☆』



前日から大雨の予報が出ていたため残念ですが中止となりました（当日大雨警報発令）。

5/27 「ゲレンデ登山ウォーク」



岩手山網張コースをうさぎ平まで登り、サンカヨウやシラネアオイなど山の花を楽しみました。総勢 6 名

7/8〜7/12 「夏の網張の森ヒメボタル観察会」



紙芝居でヒメボタルの生態についてお話し、森へ出かけました。足元の草陰で見られる

光、森のあちらこちらを飛び交う光。5日間の観察会期間中は天気も様々で、見られた数にも変動がありました。いずれも曇りも力強い光に歓声があがりました。「こんな雨の日にも頑張っていて活動している姿を応援する気持ちで見守りました」参加者感想より。

（画像提供：岩手山地区パークボランティア）

7/1〜8/31 特別企画 「生きもの・花・いのち」の写真集展



吉田修次氏制作による「網張の森の生きものたち」を含む5冊の写真集を展示。植物、生きものの繊細で合理的なつくりや、自然と人との関わりなどにも関心が寄せられています。

ヤマアカガエルの赤ちゃん 今年は110匹森へ帰りました！

6/24 ミニ企画「カエルの赤ちゃんを森へ帰そう」での様子。4/4 卵塊採取。7/7最後の5匹卒業。



インフォメーション



国立公園で楽しむ親子の自然体験



7/29(土) 『よるの森をのぞいてみよう！ コウモリ調査体験と昆虫ライトトラップ』

18:50〜20:50 網張ビジターセンター集合

講師：コウモリの保護を考える会

三井 秀男 氏（岩手虫の会）

定員：親子10組20名 ※定員に達しました

8/5(土) 『夏休み！親子で楽しむ だて先生の昆虫観察&クラフト体験』

9:30〜14:30 網張ビジターセンター集合

講師：伊達 功 氏（岩手虫の会）

定員：親子7組15名 ※要事前予約

8/27(日) 『草花が遊び道具に変身！ 箆箋&菫っぱのたたき装め体験』

9:30〜12:00 網張ビジターセンター集合

講師：松木 佐和子 氏（岩手大学講師）

定員：親子7組15名 ※要事前予約

9/10(日) 『おがやわしくなる！炭火炊飯体験』

10:00〜14:00 網張ビジターセンター集合

講師：坂内 信彦 氏（炭焼き人）

定員：親子5組10名 ※要事前予約

※上記行事 参加料：大人500円 中学生以下300円

9/30(土) 『おいしいわき水を飲む！犬倉山登山』

9:30〜15:00 網張ビジターセンター集合

講師：上村 聡 氏（岩手県自然公園保護管理員）

定員：親子7組15名 ※要事前予約

参加料：大人・中学生1,900円（リフト代込）

小学生1,000円（リフト代込）

● 依頼行事 ●

たくさんの方に国立公園を楽しんでいただけるよう依頼行事にも取り組んでいます。



5/24 グリーン・ ツーリズム

仙台市立茂庭台
中学校2年生
5名



5/28 移住者交流会 「網張の森 ハイキング」

総勢8名参加

5/26 フレンド滝沢 「春の遠足」

総勢4名参加



6/26 火山防災学習

雫石町立西山
小学校6年生
20名参加



現在開催中のビジターセンター企画展

7月1日(土)〜8月31日(木)

- 藤村 節子 布絵展 - 「わたしの景色」



沢山の思い出が詰まった布で油絵の様に描いています。テーマは私が日常で目に留まった景色などいろいろ。自分が観たまま、感じたままを自由に貼り重ね作成しています。

網張の大自然を満喫しながらご覧いただければ幸いです。

- 出展者の言葉より -

モモンガのつぶやき

今年も自宅にあるクリの木にクリーム色のドレッドヘアのような花がたくさん咲きました。花の形状とよく似たクスサンの終齢幼虫が葉っぱをモリモリと食べている姿もたくさん見られ、多少の色の違いはあれど遠目にはそっくり。クリの花が盛りの頃、タイミングよく似た形状になるのは単なる偶然ではないはず。昨年は玄関の外に置いていた帯や柱の隙間に繭を作るなど「え？こんなところに？」と意表を突く

場所で見ることができましたが、今年とはどんな意外な場所で見つけられるのか今から楽しみです。（佳）



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 5月 2,030人 ◆ 6月 1,602人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 5月 8℃ ◆ 6月 12℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2（網張温泉）

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 夏期（4月から10月末まで）休館日なし9時〜17時